

1 回収状況

- (1) 一般 655／2000 (32.8%)
(内 180 件 (27%) がインターネット回答)
(参考) 前回調査 726／2000 (36.3%)
- (2) 中学生 470／655 (71.7%)

2 - 1 調査結果の概要 (一般)

- (1) 男女平等意識については、今回調査でやや低下している項目が多い。また、国・県調査においても同様の傾向であった。(P4~18)
- (2) 「男女があらゆる分野で平等になるためには何が重要だと思いますか」の問について、「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどをあらためる」と答えた人の内訳において、30~59歳までの年齢層の割合が高かった。(P19~21)
- (3) 女性が職業を持つことについての考え方の問いで、「結婚するまで、子どもができるまで、子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた人は、「仕事と家庭の両立支援が十分でない」と回答する人の割合が高かった。(P22~26)
- (4) 「女性が出産後も離職せずに働き続けるために必要なことは何か」という問いについて、「男性の家事参加への理解・意識改革が必要」との回答が女性が男性に比べて20ポイント高かった。また、20~49歳までの年齢層で「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方の改革」の割合が他の年代に比べて高かった。(P27~31)
- (5) 「男は仕事、女は家庭」という固定的役割意識に関する問いについて、国・県調査と比べ、長久手市では、反対とする人の割合が高かった。(P36~37)
- (6) 男性が家事、子育てを行うことについて、「男性も家事、子育てを行うことは当然である」、「子どもにいい影響を与える」の回答は、20~39歳の年齢層で他の年齢層に比べて割合が高かった。(P38~40)
- (7) 地域活動等への参加についての問いについて、20~39歳の年齢層で活動に参加したことはない、活動に参加したいと思わないと回答する割合が高かった (P41~44)
- (8) 結婚について個人の自由であるという考え方に賛成する割合は、年齢層が若いほど高い傾向にある。(P45~46)
- (9) DVについて、50~59歳の年齢層でDVの被害の経験等が多い。(P49~50)
- (10) DVを相談しようと思わなかった割合は、女性に比べて男性の方が高い。(P51)

- (11) LGBTQ に関する問いにおいて、年齢層が若いほど、LGBTQ を自分の問題や、関わりのある人の問題として捉えている人の割合が高い。特に 20～29 の年齢層では、自分の問題としてあると答えた人の割合が約 10% となっている。(P64～64)
- (12) 行政の取組について、長久手市は国調査と比べて男女共同参画社会が達成できたと回答した人の割合が低い。また、男性よりも女性の方が、達成できていないとする人の割合が高かった。(P71～72)
- (13) 長久手市が男女共同参画社会を実現するために実施すべき項目として、「保育施設や保育サービス等を充実する」、「労働時間の短縮等の働き方の見直しを進める」の回答は、20～49 歳までの年齢層の方の割合が高かった。(P73～74)

2-2 調査結果の概要（中学生）

- (1) 男女平等意識については、性別による回答の割合の差はなかった (P80～83)
- (2) 男は仕事、女は家庭という考え方について、女性の方が反対とする人の割合が高かった。(P89)
- (3) 男性が家事、子育てを行うことについて、「男性が家事、子育てに参画すると仕事と両立させることが難しい」と答えた人の割合は、女性より男性の割合が 10 ポイント程度高い。(P90)
- (4) 「男らしくしなさい、女らしくしなさい」と言われた割合は、女性の方が高く、また、いやな気持ちになったと答えた人の割合も女性の方が高い。(P91～92)
- (5) 将来なりたい職業は、幼稚園・保育園の先生やスポーツ選手等、会社員、看護師・介護福祉士、建築士・設計士、技術者・エンジニアの項目で男女差が見られる。(P93～94)
- (6) 将来なりたい職業において、性別が影響すると答えた割合は、警察官・消防士・自衛官、コック・調理師・栄養士が割合が高い。(P95～96)
- (7) LGBTQ に関する問いにおいて、「カミングアウトすると周囲の人に理解が得られない」、「いじめを受ける」、「自分の心の性として利用できる施設・設備が少ない」と答えた人の割合は、女性よりも男性のほうが高かった。(P99)